

国語科学習指導案

指導者 呉立警固屋小学校 長井 明花

1 研修テーマ 自分の知識や経験を結び付けて自分ごとの解釈をし、感想をもたせる指導の工夫

2 日時 令和5年11月9日(木) 第2校時

3 学年 第2学年1組 男子6名 女子10名 計16名

4 単元名 どうぶつのひみつをさがってしょうかいしよう
「ビーバーの大工事」(東京書籍 新しい国語 二下)

5 単元について

(1) 単元観

本単元は、主として小学校学習指導要領(平成29年告示)国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」の指導事項「(1)オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと」ができる力を育成するには、文章の内容を、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付けて解釈し、想像を広げたり理解を深めたりし、文章の内容に対して児童一人一人が思いをもつことが必要となる。

本単元で扱う教材文「ビーバーの大工事」は、ビーバーが巣を作る手順に沿って文章が構成されているため、事柄の順序を考えながら内容理解がしやすい文章である。また、児童の発達段階を鑑みた際、本教材文の題材である動物は、児童が興味・関心をもちやすいと考えられることから、自分の有する動物の知識や体験を結び付けて、自分の思いをもちやすいと考える。さらに、ビーバー以外の動物についても興味を広げ、ほかの動物についての本を読んでいく活動にもつなげることができる。ビーバー以外の動物の秘密を探っていく際にも、自分の知っている動物の知識や体験を結び付けて、自分の思いをもつことにつなげていくことができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、本を読むことは好きであり、日常的に絵本や文学的な文章を読んでいる。しかし、説明的な文章を読解し、感想をもつことについては課題がある。1学期に学習した説明的な文章「たんぼぼ」では、実際のたんぼぼを観察しながら学習していくうちに、自分が知っている知識とは異なる秘密がたくさんあることに驚いていた。しかし、たんぼぼの秘密をワークシートにまとめた際に、自分の知識や経験と結び付けてどのように解釈し、理解を深めたのかについて記述することが難しく、ただ「知らなかった。」「すごい。」と終わる児童が3割程度いた。また、自分で考えて書くことが難しいときに友達の考えを写す児童も数名いる。「知らなかった。」「すごい。」で終わることなく、学級の全ての児童が自分の知識や経験と関連付けながら文章の内容について自分ごとの理解を深め、感想をもつことができるようにしていきたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、一次で学習計画を立てる際に「自分で調べた動物の秘密を発表する」という大きな目標を提示することで、意欲的に学習に取り組ませたい。また、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもつことができるよう、①調べて分かった動物の秘密②自分の知っていた動物の秘密や自分のこと③調べて分かったことと自分の知っていたことから分かったこと④自分の感想の順に書くように提示し、自分の考えを自分で整理できるように支援していきたい。

6 単元の目標

- 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕 (2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて, 感想をもつことができる。
〔思考力, 判断力, 表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに, 楽しんで読書をし, 国語を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

7 単元の評価規準

動物について書かれた本や文章を読み、分かったこと、思ったことを文章に書き表して紹介することを通した指導 【言語活動例 ウ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。C(1)ウ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。C(1)オ	・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。

<評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況(B)】	「努力を要する」状況(C)と判断した児童への指導の手立て
思考・判断・表現	<p>「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① しらべてわかった どうぶつのひみつ ぞうの体のひみつは、はなで食べものをつかんで口にはこんだり、はなで水をすいこんで体にふきかけて水あびをするためにはなが長いことです。</p> <p>② 自分のしていたらどうやって人間のこと 人間は手があるので、手をつかっただけで口にもっていきまは、はなで水が入るといいたいで、水をはなからすえません。</p> <p>③ ①と②を分かったことしらべてわかったこと ぞうのはなは、ただ長いだけだと思っていたけれど、人間とちがって手がありません。はなで食べものをつかんだり水あびをすることがわかりました。また、ぞうのはなで水をすってもいたくないことがわかりました。</p> <p>④ 自分のかんそう 人間のはなは、においがかぐときだけにつかうし、水をすったらいたいからできないけれど、ぞうのようにはなが長くて水をすうことができるなら、遠くにおかれているものはなでとつてみたいです。また、水をすって家族にシャワーしてあげたいです。</p> </div>	自分の調べた動物について、自分の知っている知識を聞き出す。そして、調べたところを聞き出して、自分自身のもった知識と比較させ、自分も同じ秘密があつたのか、どうしたか、どうできるかを助言する。

8 指導と評価の計画（全18時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1	学習の見通しをもつ。 ・知っている動物の体の特徴について話し合う。 ・「ビーバーの大工事」を読んで感想を書く。 ・教科用図書の「言葉の力」コーナーを確認し、学習計画を立てる。				
二	2 ～ 8	「ビーバーの大工事」を読み、ビーバーの秘密を調べる。 ・ビーバーの行動の順序に気を付けて、どのように巣を作るのか整理する。 ・ビーバーの3つの秘密の中で最も友達に伝えたいことを紹介する。				
	9	「ビーバーの大工事」の内容と自分の既存の知識や経験と結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめ、交流する。				
	10 ～ 15	動物に関する本を読み、調べたことを紹介する。 ・自分の調べたい動物を決め、図書室を利用し、図鑑や科学読み物を使って調べる。 ・調べた事柄について説明している語や文を選び出す。 ・調べたことをまとめて、紹介する。	○			[知識・技能] <u>ワークシート・発言</u> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 [思考・判断・表現] 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	16 (本時)	前時までに調べた動物について、書かれた本や文章を読み、自分の体験と結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめる。		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート・発言</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ○ [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。
	17	前時にまとめた感想を交流する。 友達の感想を聞いて感じたことを伝え合う。				
三	18	学習を振り返る。 ・知っている動物の体の秘密や自分が調べて知った動物の体の秘密に対する思いを交流する。 ・知りたいことを調べるためにどんなことに気を付けて文章を読んだか確かめる。				

9 本時の学習

(1) 本時の目標

自分で決めた動物について書かれた本や文章を読み、自分の体験と結び付けて分かったことや思ったことを文章にまとめることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
<p>○動画を見て、前時の振り返りをする。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p> <p>○自分の調べた動物について分かったこと、思ったことをまとめる。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p> <p>○次時の見通しをもつ。</p>	<p>○自分たちが調べた動物とそのひみつを想起できるように前時に調べた動物を発表するよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分がしらべたどうぶつについてかんそうをまとめよう。</p> </div> <p>○①調べて分かった動物の秘密→②自分の知っていた動物の秘密や人間のこと→③①と②から分かったこと→④調べて分かったことの感想の順に書くように提示する。</p> <p>◆自分の調べた動物について、一番びっくりしたところを聞き出し、自分自身と比較させ、自分にもし同じ秘密があったら、どうしたいか考えることができるよう助言する。</p> <p>○進んで感想を文章にまとめているか、書いた文章を読み返しながらか修正を加えているか、児童の様子から評価する。</p> <p>○具体的に学習を振り返ることができるよう、感想を書いてみた気づきや感想をまとめる際のポイントをノートに書くよう指示する。</p> <p>○友達と感想を交流することを伝える。</p>	<p>[思考・判断・表現] ワークシート・発言</p> <p>・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度] 児童の様子</p> <p>・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもって、感じたことや分かったことを文章にまとめようとしている。</p>

(3) 板書計画

<p>④</p> <p>しらべて分かったことのかんそう</p>	<p>③</p> <p>①と②から分かったこと</p>	<p>②</p> <p>じぶんの知っていたどうぶつのひみつや、にんげんのこと</p>	<p>①</p> <p>しらべて分かったどうぶつのひみつ</p>	<p>⑤</p> <p>ビーバーの大作 自分がしらべたどうぶつについてかんそうをまとめよう。</p>
---------------------------------	-----------------------------	--	----------------------------------	--

10 指導の実際

(1) 指導上の工夫

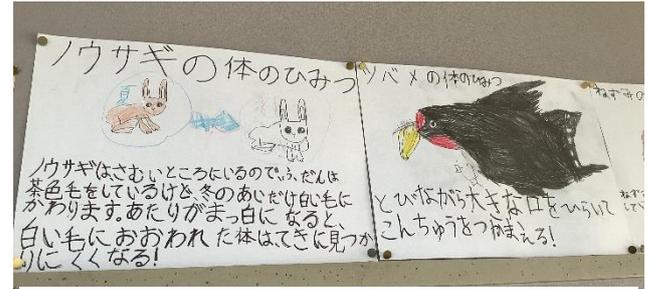
- 絵本や物語を好んで読む児童が多いため、それ以外のジャンルの本にも親しむことができるように、教室に「おすすめの本コーナー」を作り、図鑑を並行読書させた。ビーバーについて学習しているときはビーバーに関する本、他の動物について調べていくときには色々な動物に関する本に変更した。



おすすめの本コーナー

- 授業中にも並行読書の本を使って考え聞かせを行い、「このときビーバーは何をしているのかな？」など、教材文だけでなく絵本の絵からも様子を想像させ、動物への興味をもたせた。

- 社会見学で近くの公立図書館に行ったので、学校にはない自分が調べたい動物の図鑑を見せ、たくさんの情報に触れさせた。

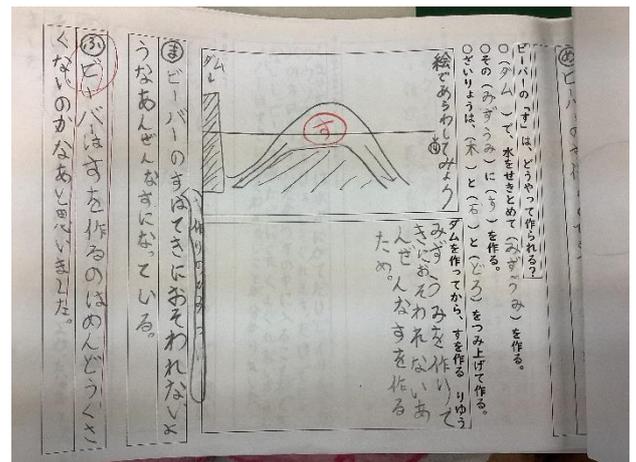


絵を使って動物の秘密をまとめたもの

- 自分で動物について調べる際には、語や文だけを選び出すのではなく、説明されている内容を絵や図にしたり動作化したりしながら内容を確かに理解できるようにした。

- 絵を使って動物の秘密を簡単な感想をもたせ、まとめた後を考えの形成の場にし、動物の様子を解釈しやすいようにした。

- ワークシートを使用し、授業の流れを振り返ることができるように、一冊にまとめた。また教材文から必要な語句を選び出しやすいよう穴埋めのできる箇所を用意した。



使用したワークシート

(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

- 児童実態から文章を書くことが苦手な児童が多い

→ワークシートに枠を作り、児童が項目に合わせて書き込みやすいようにした。

- 自分の感想がもてない

→自分にもしその秘密があったらどんなことをしてみたいか問い、想像させた。

- 言葉の意味が分からない、動物の行動が想像できない

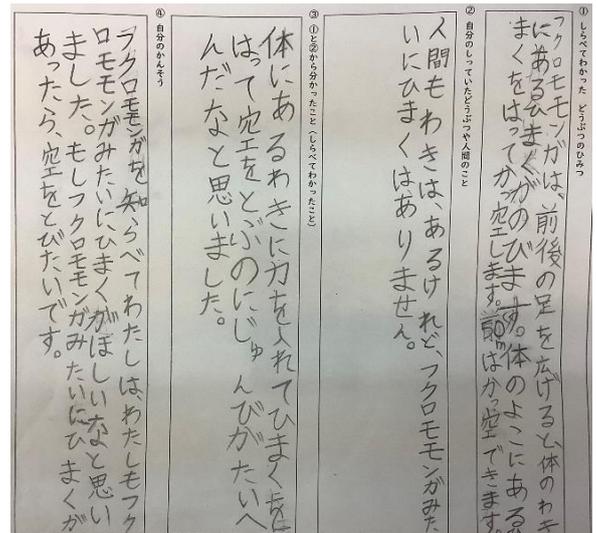
→上手に図で表せている児童や、動物の様子を体で表現できる児童をピックアップして全体共有し、理解を深めた。

11 評価の実際

(1) 評価の具体

「十分満足できる」状況 (A)

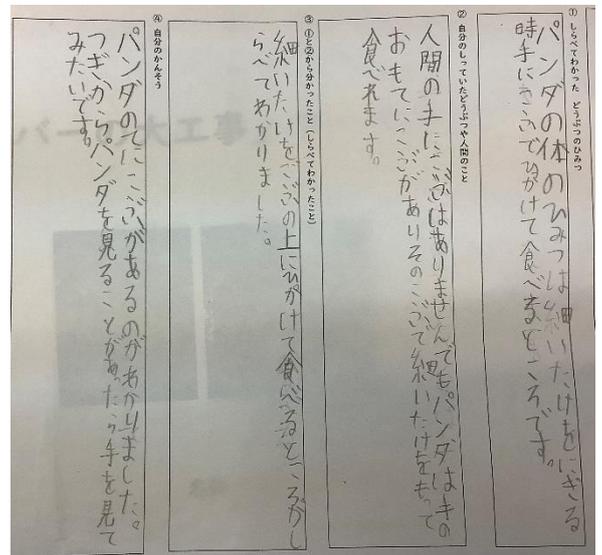
- 調べて得た情報を基に、ワークシートの4つの枠に合わせて、「7 単元の評価規準 <評価の具体及び手立て>」に示している①から④の繋がりを考えて文章の内容と自分の経験とを結び付け、助言を受けずに感想が書けている児童。



「十分満足できる」状況 (A) の児童のワークシート

「おおむね満足できる」状況 (B)

- 調べて得た情報を基に自分の経験と結び付け、①と②から分かったこと (③) を簡単にまとめ、④の自分の感想をもつことができた児童や、調べて得た情報を基に、助言を受けながらワークシートの4つの枠に合わせて、自分の経験と自分の思いを結び付けて感想を書くことができた児童。



「おおむね満足できる」状況 (B) の児童のワークシート

「努力を要する」状況 (C)

- 文章の内容を理解できなかつたり、自分の思いを言語化することが難しかったりする児童。
→これらの児童に対しては、動物の実際に写真を見せたり動作化したりするなど、言葉の意味をかみ砕いて理解を図った。そして、「どんなことに驚いた?」、「人間だったらどう?」と質問しながら詳しく聞き、一緒に思いを言葉にして整理し、まとめさせた。

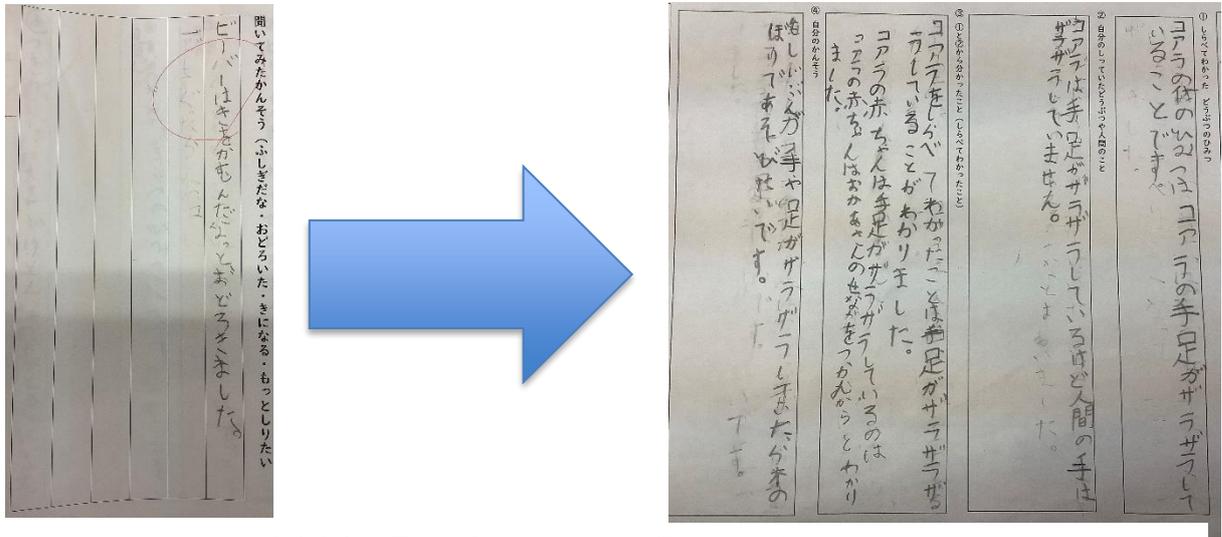
(2) 児童の評価

本単元を終えて、「『読むこと』において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C (1) オ)」における「十分満足できる」状況 (A) の児童は4人、「おおむね満足できる」状況 (B) の児童は9人、「努力を要する」状況 (C) の児童は3人だった。

12 成果と課題

(1) 成果

- ・ 普段から自分の思いを文章に起こすことが苦手で、初発の感想では一行しか書けなかった児童も、助言を受けながらではあったが、ワークシートの枠を利用したり例文を提示したりしたことで感想をもつことができた。

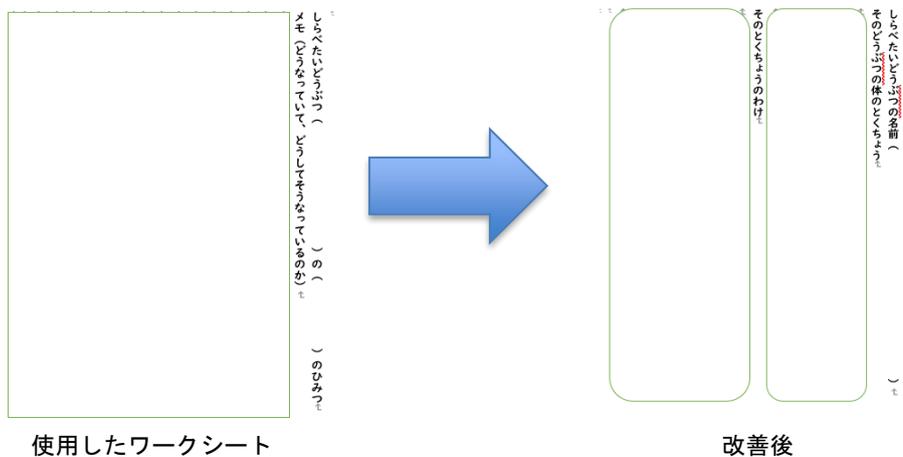


「おおむね満足できる」状況（B）の児童のワークシート
（初発の感想→本時のワークシート）

- ・ 並行読書で本を読ませていたので、様々な動物に興味をもち、進んで調べていた。
- ・ 絵を使って動物の秘密を簡単な感想をもたせてまとめた後が考えの形成の場だったので、動物の様子を想像しやすく、いつもより自分の考えをすらすら書ける児童が多かった。

(2) 課題

- ・ ワークシートで①～④の枠を作っていたが、①～④の内容が繋がっていない児童がいた。
→ワークシートに矢印を加えるなど工夫して、①から④が繋がるようにしておけばよかった。
- ・ ③（①と②から分かったこと）を書くことが難しい児童が見られ、動物の秘密と自分の体験を結び付けて理解を深めることが難しかった。
→見本の文章を提示した際に、①②と③の関係を丁寧に説明しておくべきだった。
- ・ たくさんの情報から情報を整理して必要な情報だけを考えて抜き出せない。
（体の特徴は抜き出せるが、なぜそのような体になっているのか理由まで抜き出せない。）
→ワークシートを「動物の名前」→「体の特徴」→「特徴の理由」で枠を作成し、書き抜きやすい枠を用意すべきだった。（下図参照）



- ・ たくさん小さな字で書く児童や、大きな字で埋める児童がいた。
→児童の実態や発達段階を鑑み、ワークシートに罫線やマスを引き、児童が書きやすいものにしておくべきだった。

(3) 今後に向けて

- ・書いている事柄が前後で繋がっているかを意識して書けるように日頃から声をかける。
- ・日常的に多様な本に触れることができるよう、おすすめの本コーナーに様々な種類の本を揃え、定期的に変更する。
- ・生活科など他の教科でも声をかけながら、ただ事実だけを書いたり、「すごかった。」、「おもしろかった。」などの感想にとどまったりすることのないように、自分の経験を結び付けて思いを表現する習慣をつけさせる。
- ・並行読書した本や図鑑から動物の生態や特徴についての語や文を見付け出す活動をした際に、そもそも言葉を知らないために本や図鑑で説明されている内容が理解できず、脈絡のない語や文をワークシートに書いていた児童がいた。こうした児童の学習の下支えとなる力を身に付けさせるため、普段からたくさん本で考え聞かせをしながら、様々な言葉や表現に触れさせ、語彙の拡充を図る。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
せかせかビーバーさん	ニコラス・オールランド	株式会社 クレヨンハウス
こんにちは、ビーバー	佐藤英治	福音館書店
ビーバーのペン	ビッキー・イーガン	新樹社
なりきり生きもの図鑑①虫	NHK「なりきり！むーにゃん生きもの学園」制作班	NHK 出版
なりきり生きもの図鑑②動物	NHK「なりきり！むーにゃん生きもの学園」制作班	NHK 出版
なりきり生きもの図鑑③水辺の生きもの	NHK「なりきり！むーにゃん生きもの学園」制作班	NHK 出版